

A O 入学試験

〈出典一覧〉

心 理	厚生労働省	平成 26 年版 厚生労働白書 p.99 を一部改変	
ビジネス	総務省	令和 3 年版 情報通信白書 P156-157 (図番号を変更)	
会 フ	松尾睦	『経験からの学習』 p.125	
	日本経済新聞社電子版 2021 年 4 月 1 日	Nikkei View 70 歳就業、道は険しく 生産性向上迫られる高齢者	
日 文	中野孝次	『自分らしく生きる』	講談社現代新書
歴 文	森安孝夫	『シルクロード世界史』	講談社選書メチエ
初 教	国立青少年教育振興機構	青少年の体験活動等に関する意識調査 (令和元年度調査)	
健 康	厚生労働省	平成 30 年国民健康・栄養調査結果	
安 全	厚生労働省	アニサキスによる食中毒を予防しましょう	
	厚生労働省	https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000042953.html	
会 フ	日本経済新聞 2021 年 8 月 26 日	食中毒統計 食中毒発生状況 (2016年～2020年) より引用改変 「ESG を投資理論から見ると」 (大機小機)	

問1 次の文章問題の中から、解答する問題を6つ選び、()の中に入る言葉として正しいものの番号に○をつけなさい。選択した文章問題の前の〔 〕の中に○をつけること。

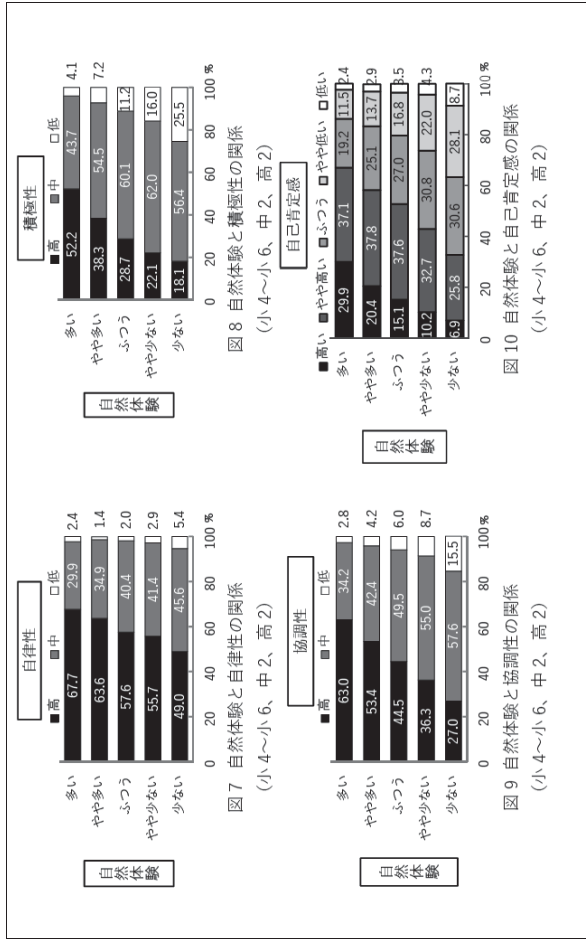
- 〔 〕 (1) 血液凝固や止血の役割を果たすのは、(1. 血小板 2. 白血球 3. 赤血球) である。
- 〔 〕 (2) 血液をろ過し、尿として老廃物や水分を排泄する役割のある器官は、(1. 肝臓 2. 脾臓 3. 腎臓) である。
- 〔 〕 (3) 患者が延命治療に関する自分の意向を生前のうちに文書で表明することを、(1. インフォームド・コンセント 2. リヴィング・ウィル 3. パターナリズム) という。
- 〔 〕 (4) 食後に血糖値が上昇すると膵臓から分泌され、血糖値を下げる働きをするホルモンを、(1. アドレナリン 2. インスリン 3. チロキシン) という。
- 〔 〕 (5) 人の精神機能をエス(イド)・自我・超自我の3つの領域で説明し、欲求不満や葛藤から自我を守る防衛機制について提唱したのは、(1. エング 2. アドラー 3.フロイト) である。
- 〔 〕 (6) 在学中に就業体験を通じて、仕事や企業、業界への理解を深める制度を(1. フェアトレード 2. コンプライアンス 3. インターンシップ) という。
- 〔 〕 (7) 生存権の保障を具体化した、生活困窮者に国が最低限度の生活を保障する制度を(1. 公衆衛生 2. 社会保険 3. 公的扶助) という。
- 〔 〕 (8) 特定商取引法で定めている、一定期間内であれば消費者が結んだ契約を無条件で契約解除できる制度を(1. リコール 2. クーリングオフ 3. リストラクチャリング) という。
- 〔 〕 (9) UNICEFは、(1. 国連難民高等弁務官事務所 2. 国連児童基金 3. 国連開発計画) の略称である。
- 〔 〕 (10) 貿易の自由化に加え、労働力の移動や知的財産権の保護などを含む、広い分野での協力をめざす二国間あるいは多国間の協定のことを(1. EPA 2. NGO 3. OPEC) という。

問2 次の語句の中から2つ選び、100文字程度で解説しなさい。選択した語句を〔 〕の中に記入すること。

- (1) ワーキングプア (2) 安楽死 (3) 介護保険制度

問題

次に示すのは、子供（小学4年生～6年生、中学2年生、高校2年生）の自然体験の豊富さと自律性、積極性、協調性、自己肯定感との関係を調査し集計したグラフです。このグラフを見て、下の1～3の間に答えなさい。なお、グラフ中、「高」「中」「低」とあるのは、それぞれの指標についての高得点群、中得点群、低得点群を表します。



(出典：国立青少年教育振興機構『青少年の体験活動等に関する意識調査(令和元年度調査)』
https://www.niye.go.jp/about/report_list/8189514806f4dfe5b8e820210719110134.html)

1. 自然体験が「やや多い」子供が「多い」子供よりも500人であった場合、自然体験が「やや多い」子供のうち、自律性が高得点群に位置する子供の数と協調性が高得点群に位置する子供の数の差は、次のうち、どれにあたるか。解答を算出する際の式や説明も合わせて下に書きなさい。

- ア. 50人未満 イ. 50人以上55人未満 ウ. 55人以上60人未満 エ. 60人以上

式や説明

解答

2. このグラフから読み取れることとして正しいものを、下のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

- ア. 自然体験が「やや少ない」子供では、協調性において低得点群に位置する子供が高得点群に位置する子供よりも多い。
 イ. 自然体験が「少ない」子供で、自律性、協調性ともに低得点群に位置する子供は、自己肯定感が高い。
 ウ. 自律性、協調性、積極性のいずれのグラフにおいても、自然体験が多い子供ほど高得点群の割合が高い。
 エ. 小学校4年生の方が高校2年生よりも自然体験が多く、自己肯定感も高い。

解答

3. あなたが、グラフから読み取ったことをまとめなさい。そのうえで、自身を小学校教諭もしくは保育者（幼稚園教諭、保育士、保育教諭）と想定し（【 】内の該当する方を○で囲みなさい）、保育・教育現場において、どのような取組みをしたらよいか、具体的に提案しなさい。（あわせて400字以内）